

大正13年刊行の『糟屋郡志』を読む(1)

箱崎に置かれた糟屋郡役所

昨年10月1日、筑紫郡那珂川町が市制施行して那珂川市となったことで、筑紫郡は地図から消えることになりました。郡には自治体としての町村が属しますが、市は含まれません。郡内の全ての地域が市に含まれると、郡は自動的に消滅することになります。

宮町(345)・久山町(348)・粕屋町(349)の7町から成ります。なお()内は市区町村コードです。共通する34が糟屋郡を示し、福岡県は都道府県コードでは40となります。

紀の歴史を経ていきます。福岡県について書かれた本、たとえば『角川日本地名大辞典』の「福岡県」の巻が第40巻となるのも、県のコードを反映していることによります。

順次実施に移され、福岡県で実施されたのは明治29年(1896年)7月1日でした。郡制は大正12年(1923年)に廃止されます。この時、郡会は消滅しますが、郡長と郡役所は大正15年(1926年)昭和元年まで存続して、残務処理に当たりました。

最後の糟屋郡長(第10代)小林新三郎の序文の冒頭を紹介いたします。新仮名づかいに直し、並列点「・」を加えるなど、読みやすくしています。

糟屋郡でも平成9年(1997年)10月1日、古賀町(347)が古賀市(223)となつて糟屋郡からはずれ、現在の糟屋郡は宇美町(341)・篠栗町(342)・志免町(343)・須恵町(344)・新

宮町(345)・久山町(348)・粕屋町(349)の7町から成ります。なお()内は市区町村コードです。共通する34が糟屋郡を示し、福岡県は都道府県コードでは40となります。

現代の郡は単に町村の場所を示す地理的区分であつて、行政的な権限を持つ団体ではなくなりました。かつては郡に郡役所と郡会・郡参事会があり、郡長が行政を司っていました(郡制)。市制・町村制の施行が明治22年(1889年)、郡制の施行は明治24年(1891年)です。全国で

糟屋郡役所編さん・発行の『糟屋郡志』(全752頁)は大正13年(1924年)に刊行されました。奥付は3月31日発行を4月15日に書き直しています。年度末の予定より半月遅れたということになります。

明治二十九年郡制実施せられて、年を経ること二十八、其の間本郡に於ける土木・勸業・教育・衛生等、自治の実績漸く挙がりて、大正十年度の予算額は正に十六万円を計うるに至り、将来猶益々其の発達を期待せし所、突如大正十年四月法律第六十三号を以て、郡制の

廃止を布告せらる。廃止の理由に就き、当時内務大臣の議会に対する説明を読むに、全国に於ける郡の事業の平均量が寡少にして、未だ自治、体をなすに足らずとするに在り。然るに其の説明の内容と本郡の施設し来たる事業の分量とを比較すれば、遙かに平均点以上に位し、敢えて自治の名を空しゅうせざるを覚ゆるなり。然るを、今にして是等名実具備の自治制を解きて、其の執り来たりし事業を、或いは県に帰し、或いは町村に移さんとす。郡たるもの豈一片の感慨ならんや。

これから順次、当時の須恵村(現在の須恵町)を中心に『糟屋郡志』を読み進め、関連するところを紹介したいと思います。編集方針は「凡例」に次のように示されています。句読点・ふりがなを補った他は、原文通り引用します。郡志の「志」は中国の歴史書「三国志」と同じく歴史を書くことを意味します。

福岡県庁に於て臼井浅夫氏をして編纂せしめられたるものにして、考証正確なることを認めたるに由る。

ておきます。

合郡制と産業 産業功労者 教育 教育の沿革 小学校郡制と教育 糟屋郡教育会 実業補習教育 社会教育 九州帝国大学 教育功労者 衛生兵事 衛生兵事 社寺名勝旧蹟 神社寺院 堂名勝旧蹟 雑録

一、本志編纂の目的は、之を郡制廃止記念とするに在るを以て、郡制施行中の事実を記し、併せて明治維新以来の沿革を録せり。

一、本志編纂に当りては、山田村【現在の久山町】河辺宗吉氏を編纂主任に囑託し、郡役所各課長、及係主任を委員とし、材料提供の任に当らしめり。

一、本志は福岡県地理全誌を以て根拠とし、記述したる所尠からず。同誌は明治七年頃県下各町村より書上たる事実に依り、

総説 沿革 位置広袤(東西と南北の長さ) 地勢気候 地理上の変遷 土地戸口 行政 制度の変遷及行政区画 県会 郡行政 郡財政及財産 糟屋郡役所 箱崎警察署 福岡区裁判所出張所 町村行政 町村組合 運輸交通 道路 鉄道 車輛 郵便 電信電話 郡制と土木 土木事業施設の沿革 郡道 橋梁 堰埭【いせき】 河川 堤防 溜池 樋管 波止及砂止 郡営土木箇所 町村営土木費補助 土功水利の事蹟 産業 産業一班 農業 蚕業 畜産業 園芸業 糟屋郡農会 町村農会 糟屋郡進農会 商業 工業 鉱業 水産 業 林業 産業組

次)に目次の主な項目を挙げ

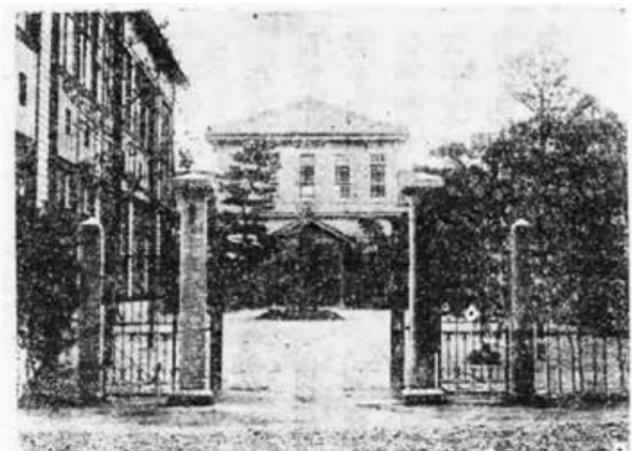
一、本志編纂の目的は、之を郡制廃止記念とするに在るを以て、郡制施行中の事実を記し、併せて明治維新以来の沿革を録せり。

一、本志は福岡県地理全誌を以て根拠とし、記述したる所尠からず。同誌は明治七年頃県下各町村より書上たる事実に依り、

次に目次の主な項目を挙げ

一、本志は福岡県地理全誌を以て根拠とし、記述したる所尠からず。同誌は明治七年頃県下各町村より書上たる事実に依り、

一、本志は福岡県地理全誌を以て根拠とし、記述したる所尠からず。同誌は明治七年頃県下各町村より書上たる事実に依り、



写真は箱崎にあった「糟屋郡役所」(『糟屋郡志』121頁より)。明治35年(1902年)3月に新築。